

論文内容の要旨

博士論文題目 認知症および非感染性疾患予防につながる食品・食事要因
の検討に対するデータサイエンスの活用

氏名 徳田 佐紀

(論文内容の要旨)

本研究は、非感染性疾患や認知症の予防を目指し、データサイエンス活用により、それらのリスク因子に関係する集団の特徴を明らかにするとともに、食習慣や食品摂取を変えることによりリスクを低下させる方法を探索することである。観察研究のシステマティック・レビューを行って、茶摂取が認知症・アルツハイマー病を予防するか、また、良好な認知機能や認知機能の低下抑制と関係するかを検討した。さらに、エネルギー摂取量と非感染性疾患の関係について、中医体質評価法をもとに、検討した。これらの結果から、日本の男性においては、エネルギー摂取量と独立して、中医体質は BMI に影響を及ぼすことが示された。日本人を対象とした中医体質研究の報告はまだ少ない中、本研究は、日本人の健康状態を把握するための中医体質研究の基礎となると位置づけられる。

氏名	徳田佐紀
----	------

(論文審査結果の要旨)

令和2年10月21日に開催した公聴会の結果を参考に、令和2年11月18日に本博士論文の審査を実施した。以下に述べる通り、本博士論文は、本学位申請者が、独立した研究者として研究開発活動を続けていくために必要な素養を備えていることを示すものである。

徳田佐紀は、本博士論文「認知症および非感染性疾患予防につながる食品・食事要因の検討に対するデータサイエンスの活用」において、データサイエンスにもとづいた方法を活用し、ヒトの体質から認知症および非感染性疾患予防につながる食品・食事要因を体系的に把握し、その関係性からの法則性をみいだした。

よって、本論文は、博士(理学)の学位論文としての価値があるものと認める。